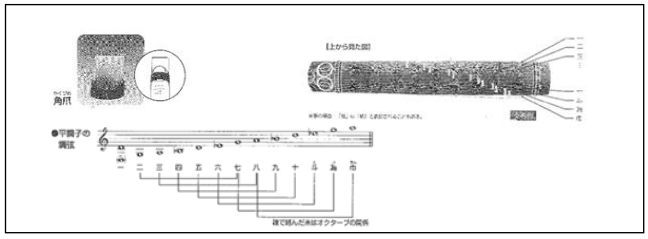
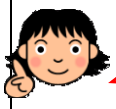
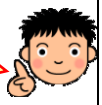
音楽科　　第４学年　「日本の音楽でつながろう」

育成を目指す資質・能力　【課題発見・解決力】

《本時における学ぶ意欲が高まった児童の具体的な姿》
○箏で「さくらさくら」を演奏するために，箏の演奏の仕方を知る過程で，自らの課題を見つけて取り組もうとしている。

新たな見方・考え方への広がり

課題意識・相手意識の高まり

授業のながれ（全５時間　第２時）	児童の様子
○つかむ・見通す  【箏の演奏に関する基本的事項】 箏の基本的な名称や糸（弦）ごとに音階の音が決まっていること，爪のはめ方等，既習の内容を確認し，本時の学習への意欲を喚起した。	既習とのつながり ○前時に和楽器で演奏される曲を鑑賞し，和楽器と洋楽器の音色や響きを聴き比べた。また，箏に初めて触れる経験をしたことで，我が国の音楽や楽器に興味をもち，意欲的に学習に取り組もうとする児童の姿が見られた。 思考のつながり ○前時に学習した箏の演奏に関する基本的事項の資料に加えて，「さくらさくら」の楽譜等を可視化したことで，児童個々が必要に応じて確認しながら学習をすすめることができた。
○学習課題 ことの音色やひびきを生かすえんそうのしかたを考えよ	爪で糸（弦）をどのように弾くかによって，楽器の音色や響き方にちがいが出てくるのかもしれないね。
○考える・学び合う 【爪のはじき方を試す】 【お互いに助言する】	○発展的な演奏の仕方として，「あと押し」や「あわせ爪」を生かすことでも箏の音色や響きを高めることができるという意見が出た。 ○自分の課題や友達の課題についてお互いに確認，助言し合うことで，児童個々が解決のための糸口をつかみ，これからの練習に生かそうとしていた。
○学び合う 箏の演奏の仕方を順を追って学びながら，自分にとって課題となるところを考えさせた。児童個々の課題に対してグループ内でお互いに助言し合い，課題の明確化を図ると同時に，解決するための糸口を見つけたり気付かせたりする機会とした。また，奏法の映像を活用し，学ぶ観点を示しながら活動をすすめた。	 ことの演奏のしかたが分かってきたので，音色や響きをもっとよくしていきたいな。
○まとめ ことのえんそうのしかたを学びながら，音色やひびきを生かすえんそうのしかたを考えることができた。	
○振り返り 箏の演奏の仕方を学ぶ過程で，箏の音色や響きを生かすための課題を明らかにすることで，次時の演奏に向けてのイメージをもつことができるよう記述させた。	思考のつながり 自分の課題が分かったので，次の学習では，楽器の音色や響きを生かして演奏したいと思う。